

67. 教室における研究活動の現況

——細胞診・内分泌外科——

堀 中 悦 夫 (千大)

過去1年間の細胞診症例は982例である。最近肝・胆・膵疾患に対してエコー下穿刺吸引細胞診, PTCD チューブ洗浄, ブラッシング細胞診などを積極的に行い, その診断率は80%前後である。甲状腺疾患手術症例は過去3年間で良性40例, 悪性29例の計69例であった。乳癌手術症例は過去3年間で98例で, これらのうち現在までに再発をきたした例は9例あり, その再発率は9%である。

68. 教室における研究活動の現況

——消化器外科——

更 科 広 実 (千大)

消化器外科研究グループは上部消化管, 下部消化管, 胆道・膵疾患, 肝臓外科, 免疫・化学療法などの研究班に分れ, 研究員総数は37名である。上部消化管は内視鏡的食道静脈瘤栓塞療法やレーザー治療を, 下部消化管では術前照射療法と広範囲の画像診断を, 胆道・膵疾患では ERCP や胆道鏡を用いた治療を, 肝臓外科では肝予備能の評価や肝障害の病態を, 免疫・化学療法では胃癌術後免疫化学療法研究会を中心に研究を進めている。

69. 外科代謝・栄養

真 島 吉 也 (千大)

外科代謝研究班の, この1年間の臨床, 研究成績につき以下の項にしたがい報告した。(1)高カロリー輸液臨床成績, (2)家庭での TPN, (3) TPN 時の必須脂肪酸(ω -3, ω -6系), (4)脂肪乳剤大量投与量の検討, (5)侵襲下蛋白代謝回転, (6)栄養不良例の適性投与量, (7)侵襲下グリセリン代謝回転, (8)高分枝鎖アミノ酸製剤の蛋白節約効果, (9)心臓外科患者の栄養評価, (10)経腸栄養の熱源, (11)最小径内視鏡の開発と臨床応用。

70. 循環器外科

中 川 康 次 (千大)

われわれの研究活動の現況について, 過去1年間の主要学会に発表した内容を中心に述べた。

血管外科の分野では, 血行再建術後の血小板機能の変動につき, 今回はグラフト材質の面から検討し, また大動脈手術の際の腎機能障害発生の病態について検討した。心臓外科の分野では, 拍動流バルーンポンプの駆動を利用した補助循環法の基礎的研究, 僧帽弁膜症, A-C バイパス術後の心機能の検討, 肺血管外水分量の測定法の問題点につき報告した。